

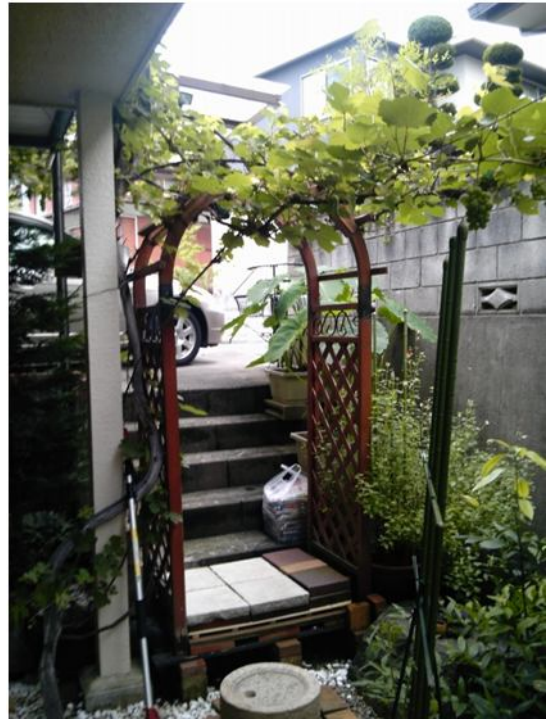
「実家のブドウ棚」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私は八王子の実家に5歳から大学卒業まで住んでいた。両親は今でも45年前に建てた家を、きれいに使って住んでいる。この実家の「名物」が「ブドウ棚」である。家を建ててすぐの頃、深谷市の父の実家「人見ん家(ひとみんち)」から移植してきたもとだ。



先日、実家に行ったら、今年もものすごい数のブドウの房が実っていた。狭い庭だけではなく、カーポートの上にもまで、重そうになっている。たぶん200房ぐらいあるだろう。まさに「田中ブドウ園」である。



私は子どもの頃から、このブドウ棚に親しんできた。品種はよくわからないが、秋になると紫色に熟して、甘酸っぱくてとてもおいしかった。たくさん収穫して、クラスみんなに一房ずつ配ったこともある。

小学校4年生か5年生の時には、「種無しブドウ」の研究をしたことがある。学研の植物図鑑に、「ジベレリン(植物ホルモンの一種)を使った種無しブドウの作り方」というのが載っていたのだ。私は、さっそく薬局でジベレリンを注文し、さまざまな濃度の溶液を作って、開花前、開花時など条件を変えて、ブドウの房に浸して実験してみた。当時の私は化学少年だったので、ビーカーや試験管など、実験器具を一通り持っていた。

条件によって、実が大きくなったり、種なしになったり、結実しないものがあったり・・・さまざまな結果が出た。その「自由研究」の記録が残っていないのが、大変残念である。

